

## 平成25年度箕面市指定地域密着型サービス事業候補者選定委員会 議事概要

### 1 委員会の開催状況

- (1) 開催日時 平成26年3月24日(月)午後2時から午後4時30分
- (2) 開催場所 箕面市役所 本館2階 特別会議室
- (3) 出席委員 小野委員長 [健康福祉部長]  
浅井副委員長 [総務部長]  
千葉委員 [市民部長]  
明石委員 [有識者]  
井上委員 [有識者]
- (4) 事務局 健康福祉部理事 中井  
健康福祉部専任参事(高齢者施設担当) 向井  
高齢者施設担当主査 中島  
高齢者施設担当 青山

### 2 議事概要

- (1) 委員の紹介、事務局からの事前説明
- (2) 各事業者からのプレゼンテーション及び各事業者に対するヒアリング

#### 主な質疑応答

##### 【応募事業者】

- (質問) 提案書の中にボランティアの受け入れについての記載があるが、地域との交流についての具体的な取り組みについてはどのように考えているか。
- (回答) 地域に住む認知症の方についての取り組みを重要視しており、当法人が運営する居住系施設の認知症待機者0を目指している。また、地域の方を対象に認知症に対する講座の実施や、認知症サポーター養成の研修を実施している。
- (質問) 当該サービスは職員の雇用形態や勤務形態、職種など多種にわたり一堂に会しての研修実施が難しいが、職員研修についてはどのように考えているか。
- (回答) ヘルパーの教育については、社内規格で「マイスター制度」を導入しており、ヘルパー技術のスキルアップを図っている。また、施設ごとに年間研修計画を定めており、多種多様な職員形態に対応するため現場ごとに複数回の研修を実施している。
- (質問) 施設介護と在宅介護の違いや在宅介護の課題はどのように考えているか。

(回答) 在宅介護では、利用者の置かれている環境についてヘルパーが認識することが大事であり、また難しい面でもあると考える。利用者の置かれた環境をヘルパーが認識し、リズムに応じたサービスの提供を行っていききたい。また、利用者確保についても課題であり、当該サービスにおけるケアマネジャーの理解がまだまだ広まっていないので、地域包括支援センターを交えてサービスの周知を行っていききたい。ヘルパーの技術という面においては、施設ヘルパーは食事の調理介助に慣れていないので、これについても施設介護と在宅介護の違いの一つと考える。

(質問) 当該サービスは施設入所後に必要なシステムではなく、施設に入る前の在宅高齢者に必要なシステムだと考えるが、それについての貴法人の考え方はいかがか。

(回答) 在宅高齢者を支えるためには、地域包括ケアシステムの構築が重要と考えているが、現在このシステムに施設が入り込めていない。当法人の考えは、当該サービスを利用することにより施設から在宅へ復帰することも可能とし、今まで施設に入所したら連携が切れていた地域のケアマネジャーと施設の繋がりもできると考えている。施設の最終的な役割は看取りと認知症高齢者の受け入れ場所と考えている。

(質問) 利用者端末は家庭の電話回線を使用するわけではないのか。

(回答) 通常の携帯端末と同様に家庭の電話回線は使用しない。

(質問) 提案書の中に本市障害者施策への貢献策についての記載があるが、重度訪問介護の対象者についてのサービス提供とは、具体的にはどのような方法を考えているのか。

(回答) 重度訪問介護の対象者については、支給限度額により従来の訪問介護では十分なサービスを提供できていない方などもあり、そういった方についても当該サービスを利用することにより柔軟な訪問サービスを提供することが可能と考えている。

(質問) 重度訪問介護の対象者とは、介護認定対象者が前提ということか。

(回答) そうである。

(質問) 利用者については、開設当初は併設施設の利用者が中心で、次第に地域の在宅高齢者の利用者を延ばしていくという考えでよいか。

(回答) そうである。当該サービスは認知度が低いことが課題である。

(質問) 施設利用者と在宅利用者の当該サービス提供のイメージはどのようなものと考えているか。

(回答) 施設利用者については、随時の見守りと排せつ介助が中心で、食事や入浴については施設サービスとして実施する。在宅利用者については、食事や入浴介助についても訪問介護員が提供する。

(質問) 当該サービスは地域密着型サービスであるが、本市の地域特性に合わせたサービス提供についてはどのように考えているか。

(回答) 地域包括ケアシステムの構築には当該サービスが重要であると考えている。当該提案事業所は東部生活圏域にあたるが、当該サービスが東部生活圏域から市内全体に広がるようにサービス提供していきたい。

(質問) 当該サービス実施における貴法人のアピールポイントは何か。

(回答) 箕面市は比較的所得層が高く、最後まで住み慣れた地域や自宅での生活を希望される高齢者が多い。しかし、要介護状態になり地域に馴染めず施設で生活するしかなくなる方も多くいる。当該サービスの利用により在宅生活を継続することが可能となり、施設入所者についても状態が改善したら施設から在宅へ復帰し、重度化したら再び施設へ入所することも可能である。こういった流れは従来の訪問介護サービスでは対応できないもので、当該サービスの提供が必要である。しかし、当該サービスの普及には啓蒙が一番大事なことであると考えている。当法人では、地域包括支援センターも含め地域のケアマネジャーや市民への啓蒙活動に取り組んでいきたい。

#### 【応募事業者】

(質問) 当該サービスは職員の雇用形態や勤務形態、職種など多種にわたり一堂に会しての研修実施が難しいが、職員研修についてはどのように考えているか。

(回答) 当法人の介護老人保健施設、デイサービス、デイケアを一通り体験してもらい、まずは様々な介護保険サービスについて知ってもらうこととしている。また、年2回介護老人保健施設主体の研修に参加したり、週1回昼休みを利用して最新情報を共有したり、外部の研修にも積極的に参加を促している。

(質問) 利用者確保についてはどのように考えているか。

(回答) 正直難しいと考えている。利用者に当該サービスの概念が理解されにくいのだと思う。しかし、一方で高齢者は自宅から動きたくないと考えている。住み慣れた地域や家で生活していく上で必要なサービスであり、よいシステムだと認識されれば定着していくと考えている。このサービスについては採算性だけで参入を判断するわけではなく、5年後、10年後に必要な形と思い、応募している。

(質問) 貴法人の訪問看護サービスの利用者数と平均利用回数はどのくらいか。

(回答) 訪問看護師 20 名で約 220 名の利用者を担当している。月に 1 から 2 回程度の利用の方もいれば、日に 2 から 3 回程度訪問が必要な方など様々である。

(質問) 採算性については重要視していないようだが、採算が成り立たなければ現実的に事業を継続することやサービスが普及することも難しいと考えるが、それについてはどのように考えているか。

(回答) 採算が取れなくてもよいということではなく、当該サービス単体では現実的に採算を取りづらいことから、当法人が行う他事業と併せ法人全体で採算を取っていきたい。また、サービス普及にはこういった先行投資のような参入も必要かと考えている。

(質問) 当該サービスは世間での認知度が低いといわれるが、利用者を増やす方策、事業の認知度向上に向けた PR についてはどのように考えているか。

(回答) 当該サービスは、熱意のある職員の頑張りだけでは続かない。普及のポイントは「安易(利用しやすい・サービス提供しやすい)」という点ではないかと考える。まずは、利用者やその家族が「安易」という点で、利用者宅にいながら病室にいるのと同等のサービスを受けることも可能である当該サービスは、利用者やその家族にとって安心して使いやすいものとなり得る。そしてもう一つは職員が「安易」という点で、i P a d 等の I C T を活用した業務の効率化により、職員の技術的・精神的負担の軽減に繋がる。この 2 つの「安易」をアピールできれば当該サービスの普及に繋がると考えている。

(質問) 利用者確保においては潜在的利用希望者の掘り起しが重要と思うが、それについてはどのように考えているか。

(回答) 医療や介護分野において、サービスによっては必ずしも事業者が利用者を掘り起こすことは必要ないと考えており、当該サービスの場合は必要となった時に利用したい方が利用できるようにサービスの選択肢を整えていくことが重要と考えている。

(質問) ケアコール端末は家庭の電話回線を使用したものとなるのか。

(回答) そうである。

(質問) アナログやデジタルなどの回線の種類による利用制限はあるのか。

(回答) アナログ・デジタル問わず利用可能である。

(質問) 障害者施策への貢献策についてはどのように考えているか。

(回答) 当法人が市内で運営する病院は、障害者病棟を有しており、こういった障害者をご質問の対象と考えるが、市からの要望があれば適宜検討していきたい。

(質問) 提出された収支シミュレーションは、主に要介護3の利用者を想定しているが、利用者構成についてはどのように考えているか。

(回答) 国のモデルが主に要介護3の利用者を想定しているため、それを踏まえたシミュレーションとした。介護度がより重い対象者の利用も考えられる。

(質問) 食事、排せつ、入浴介助などはどのように考えているか。

(回答) 朝、夕の訪問時にいろいろなサービスを提供しつつ、日中は見守りなど短時間の訪問を提供していく想定。しかし、利用者ごとに必要とするサービスや環境が異なるので、その方一人一人の状態に合わせてプランを立てサービスを提供していく。

### (3) 各委員の主な意見等

- ・応募事業者 については、有料老人ホームにおけるサービスの充実を強調したプレゼンテーションとなり、地域に住む高齢者の自立をどう支えていくかについて語られなかった。また、利用者確保については「周知」という方法に止まり具体的な戦略を聞き取ることができなかった。全体的に地域へ向けた事業展開について消極的な印象を受けた。
- ・応募事業者 については、地域に住む高齢者を支えるサービスという理念が明確で、医療と介護の連携を実現するバックヤードについても実績がある。また、本市の高齢者数や地域特性などの特徴をとらえた提案となっている点も評価でき、地域に貢献することが大いに期待できる。
- ・障害者施策への貢献策については、どちらも具体的提案に乏しく大差は感じられなかった。

## 3 委員会としての結論

採点の結果、応募事業者 1000満点中626点(62.6%)、応募事業者 1000満点中702点(70.2%)となり、より高い評価点数であった応募事業者 (医療法人マックスール)を事業候補者に選定した。